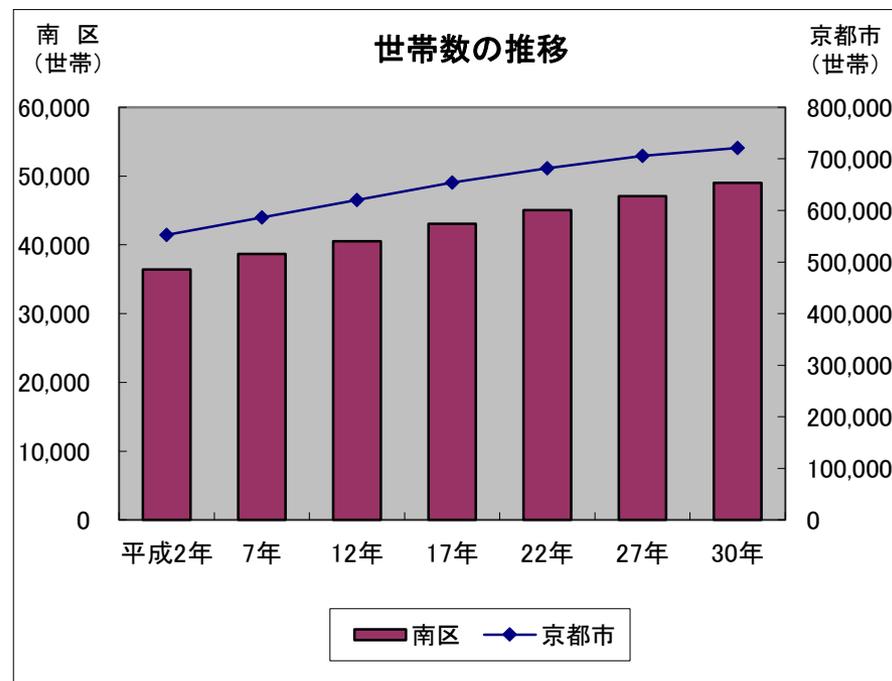
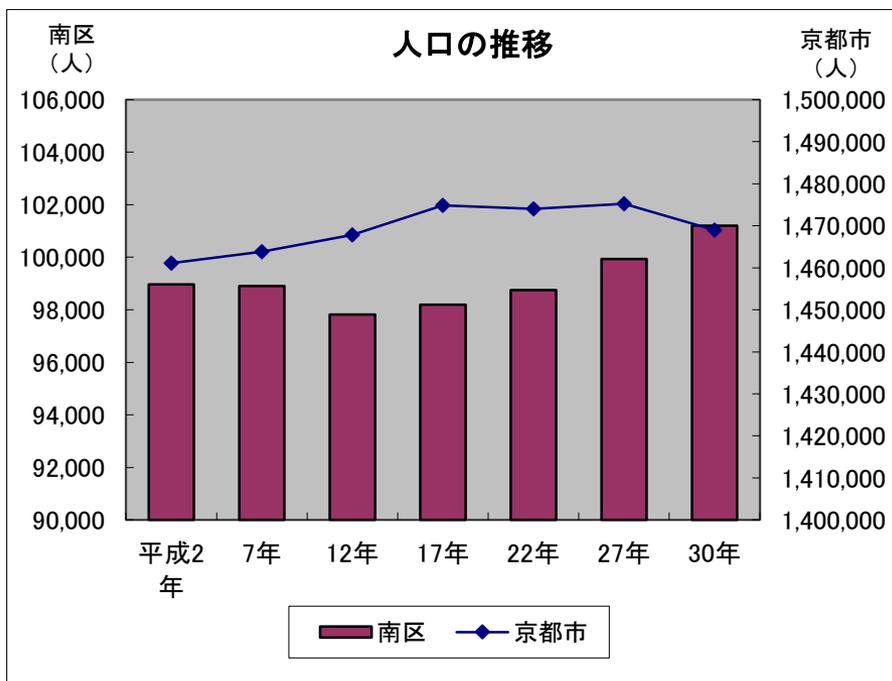


南区の現況

(各種統計データ)

(1) 人口及び世帯数の推移

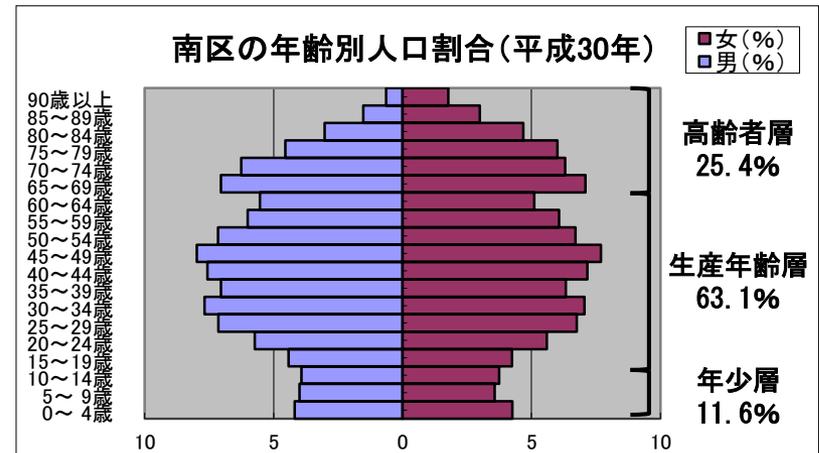
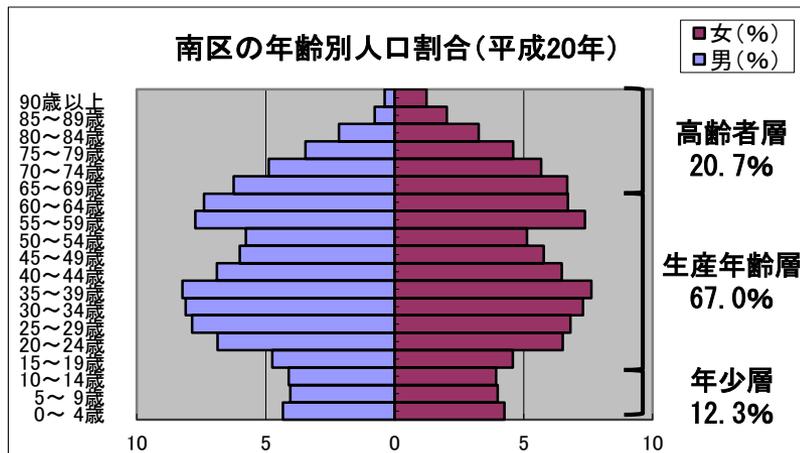
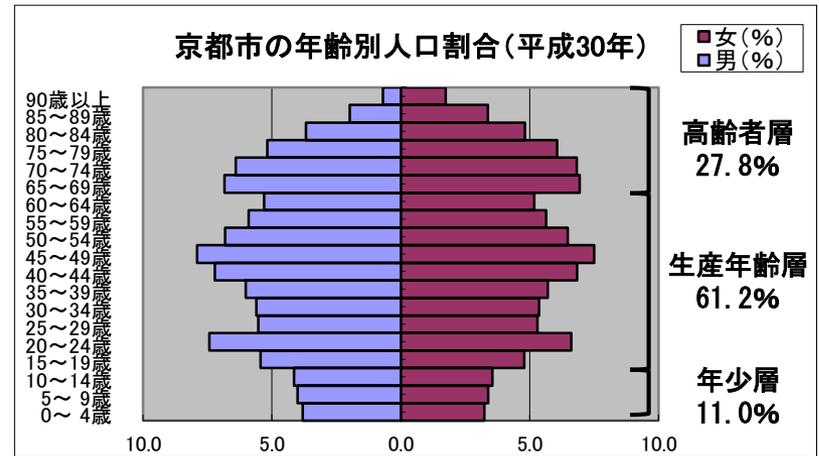
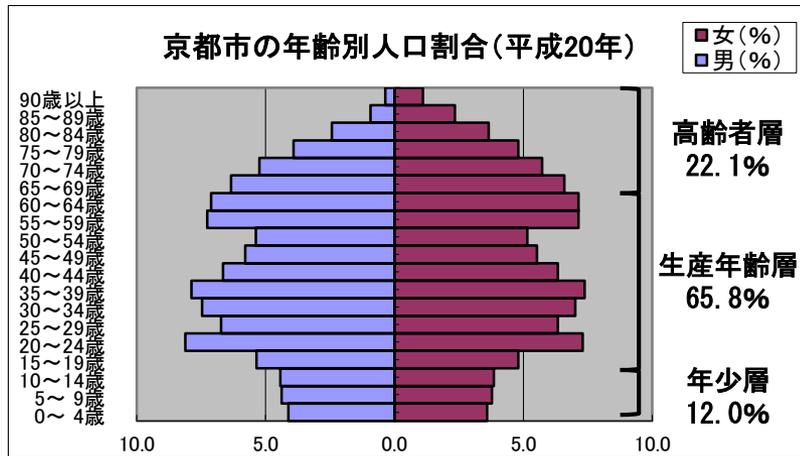
- ・京都市全体の人口が減少傾向にあるのに対して、南区は近年は増加傾向にある。
- ・単身世帯の増加に伴い、京都市全体及び南区ともに世帯数は増加傾向にある。



出典：京都市人口統計

(2) 年齢階層別人口割合 (人口ピラミッド)

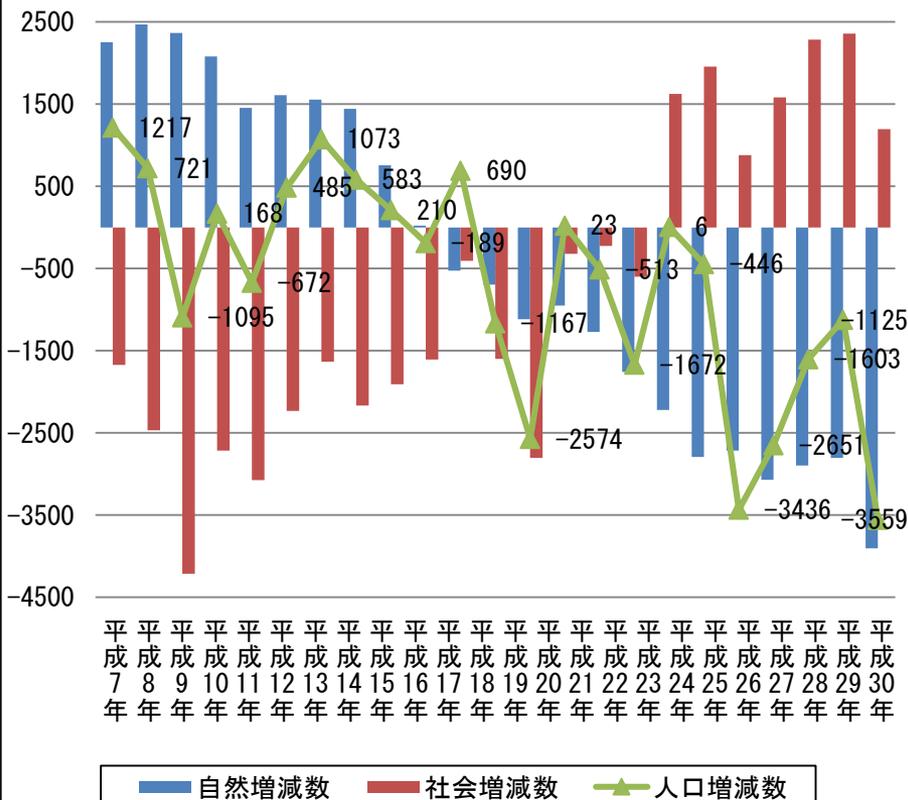
- 平成30年において京都市と南区を比較すると、南区は「20～24歳」の割合が低い一方で、「25～29歳」、「30～34歳」、「35～39歳」の割合が多い傾向にある。
- 平成20年と平成30年を比較すると、南区では生産年齢層は約4%減少しているほか、高齢者層は約5%増加している。



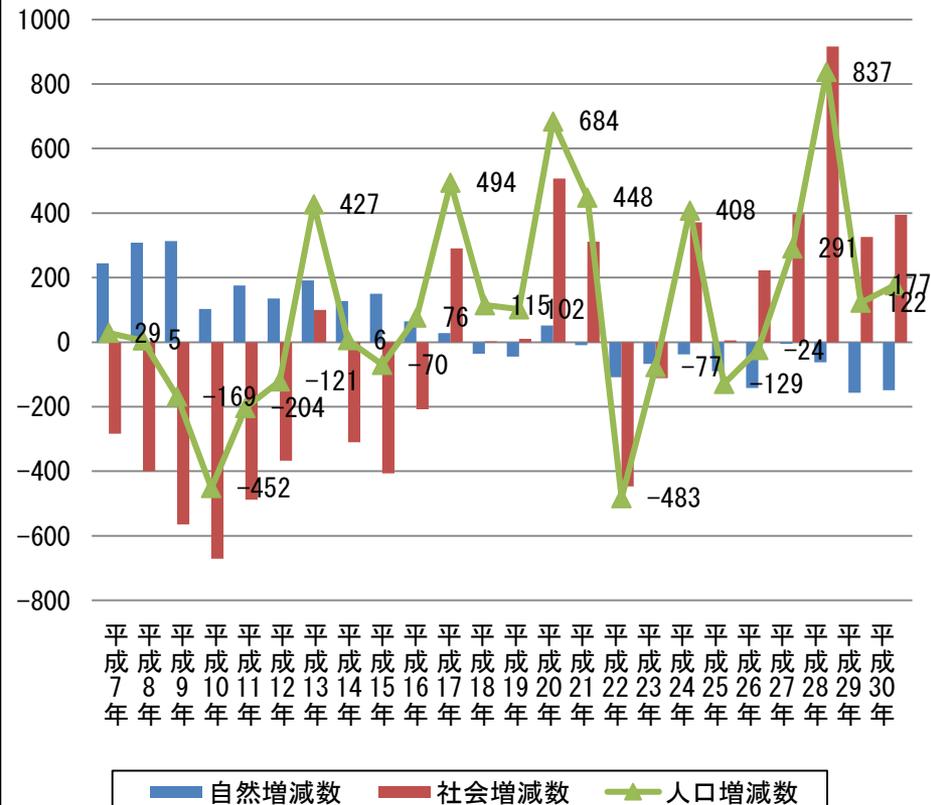
(3) 人口動態

- ・京都市では近年は人口減少の傾向にあるが、南区では人口増加の傾向にある。
- ・南区では平成7年～16年頃までは自然増よりも社会減が上回っていたが、平成17年～30年頃からは自然減よりも社会増が上回っている。

京都市における人口動態（平成7年～平成30年）



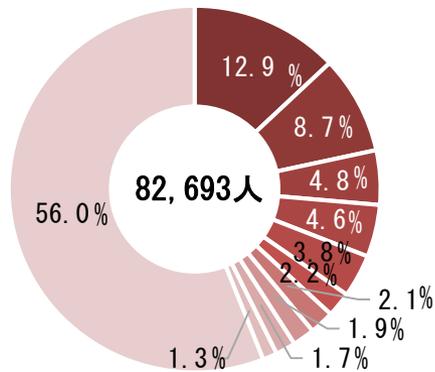
南区における人口動態（平成7年～平成30年）



(4) 転出入の状況 (平成30年)

- ・平成30年の南区における転出入者の状況として、転入者は「国外」からが最も多く、転出者は「伏見区」へが最も多い。
- ・京都市においては、転入者は「国外」からが最も多く、転出者は「大阪府」へが最も多い。

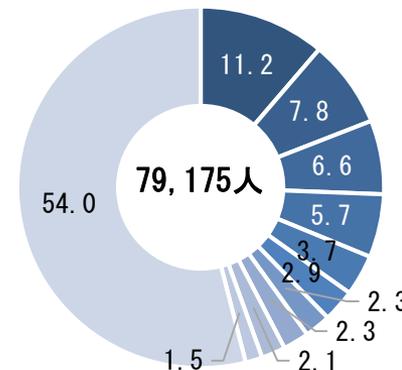
京都市の転入者



転入者の前住地
(上位10位)

国外	10,687人(12.9%)
大阪府	7,163人(8.7%)
東京都	3,973人(4.8%)
滋賀県	3,806人(4.6%)
兵庫県	3,123人(3.8%)
愛知県	1,800人(2.2%)
宇治市	1,764人(2.1%)
大津市	1,588人(1.9%)
神奈川県	1,436人(1.7%)
福岡県	1,039人(1.3%)

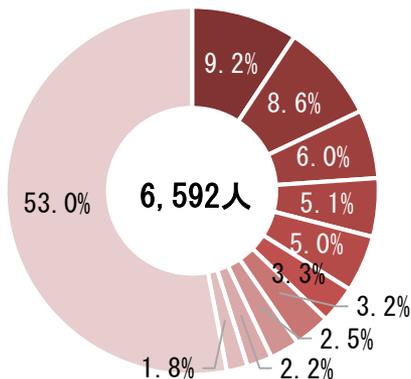
京都市の転出者



転出者の現住地
(上位10位)

大阪府	8,854人(11.2%)
国外	6,200人(7.8%)
東京都	5,233人(6.6%)
滋賀県	4,482人(5.7%)
兵庫県	2,894人(3.7%)
大津市	2,290人(2.9%)
宇治市	1,831人(2.3%)
神奈川県	1,819人(2.3%)
愛知県	1,677人(2.1%)
向日市	1,178人(1.5%)

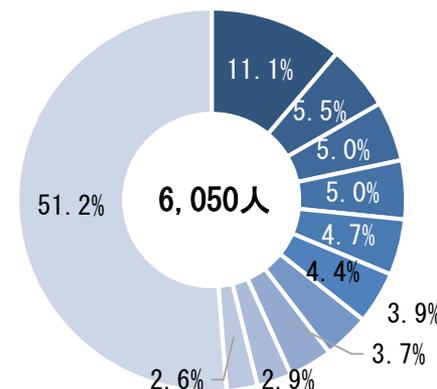
南区の転入者数



転入者の前住地
(上位10位)

国外	608人(9.2%)
伏見区	570人(8.6%)
下京区	397人(6.0%)
西京区	339人(5.1%)
右京区	328人(5.0%)
大阪市	216人(3.3%)
東京都区部	209人(3.2%)
大津市	168人(2.5%)
中京区	144人(2.2%)
向日市	120人(1.8%)

南区の転出者数

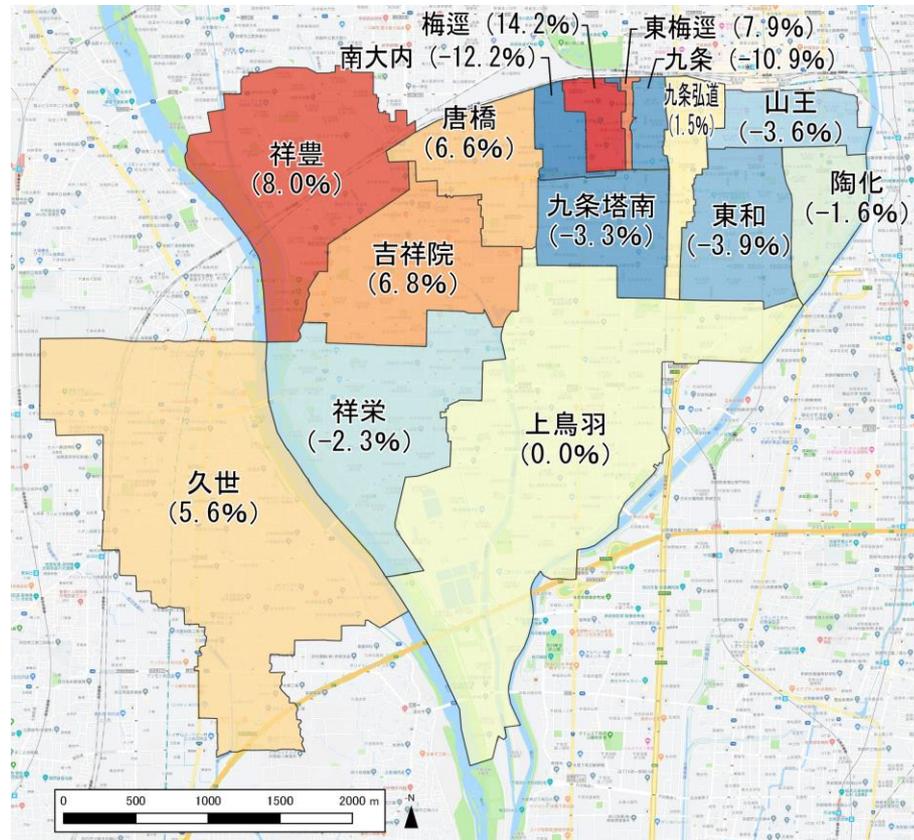


転出者の現住地
(上位10位)

伏見区	673人(11.1%)
右京区	332人(5.5%)
下京区	305人(5.0%)
西京区	301人(5.0%)
大阪市	286人(4.7%)
国外	267人(4.4%)
東京都区部	235人(3.9%)
向日市	221人(3.7%)
大津市	175人(2.9%)
中京区	156人(2.6%)

(5) 学区別の人口増減率

- 平成17年から平成27年までの10年間に於いて南区では1.8%増加している。



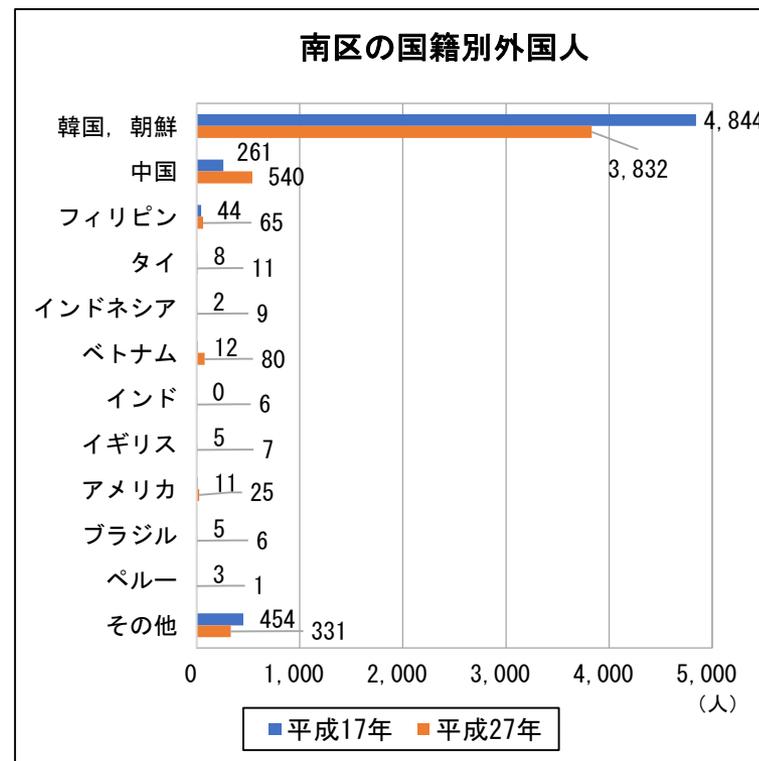
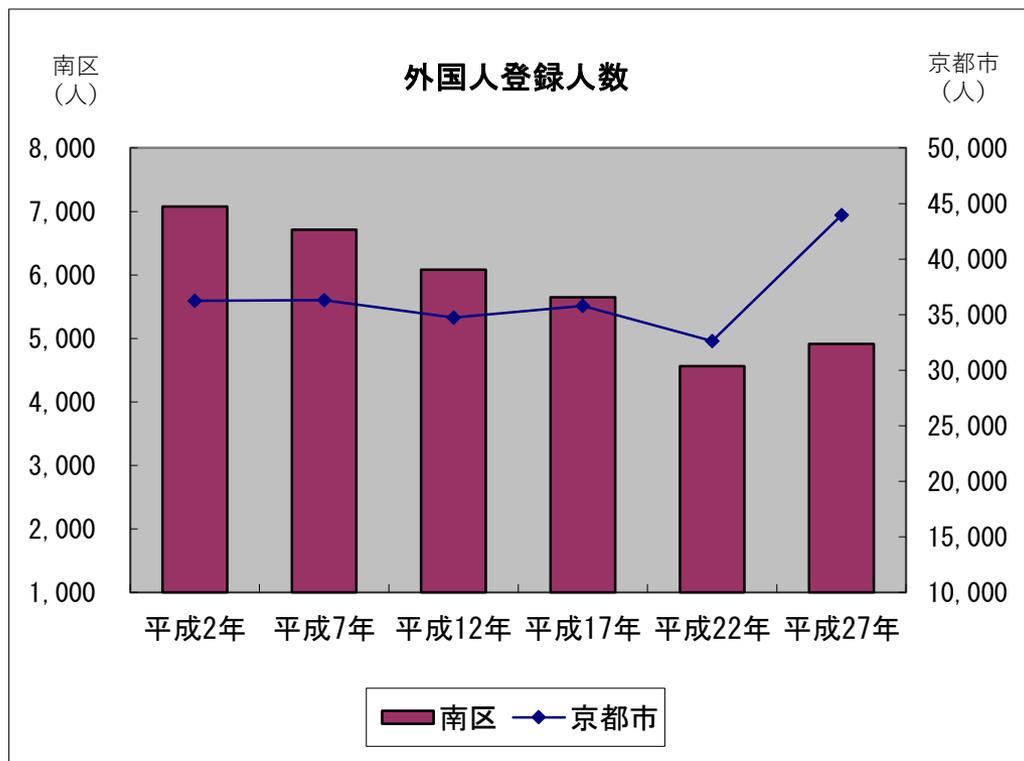
学区別の人口増減率 (H27→H17)

学区	平成17年 (人)	平成27年 (人)	人口増減率 (%)
九条塔南	7,560	7,307	-3.3
南大内	3,491	3,066	-12.2
梅逕	989	1,129	14.2
東梅逕	330	356	7.9
九条	2,100	1,872	-10.9
九条弘道	2,693	2,733	1.5
山王	3,930	3,787	-3.6
陶化	4,936	4,858	-1.6
東和	7,707	7,410	-3.9
上鳥羽	8,881	8,885	0.0
久世	20,789	21,949	5.6
祥栄	7,275	7,106	-2.3
吉祥院	10,136	10,830	6.8
祥豊	8,327	8,991	8.0
唐橋	9,049	9,648	6.6
南区	98,193	99,927	1.8

出典：国勢調査（平成17年，平成27年）

(6) 外国人の人口

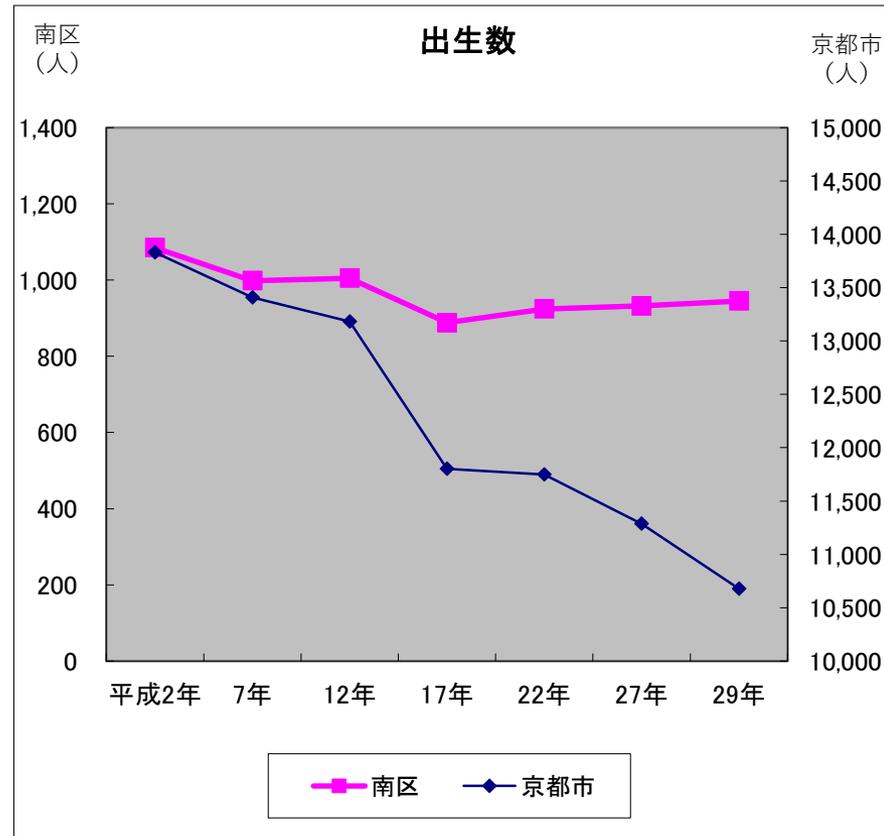
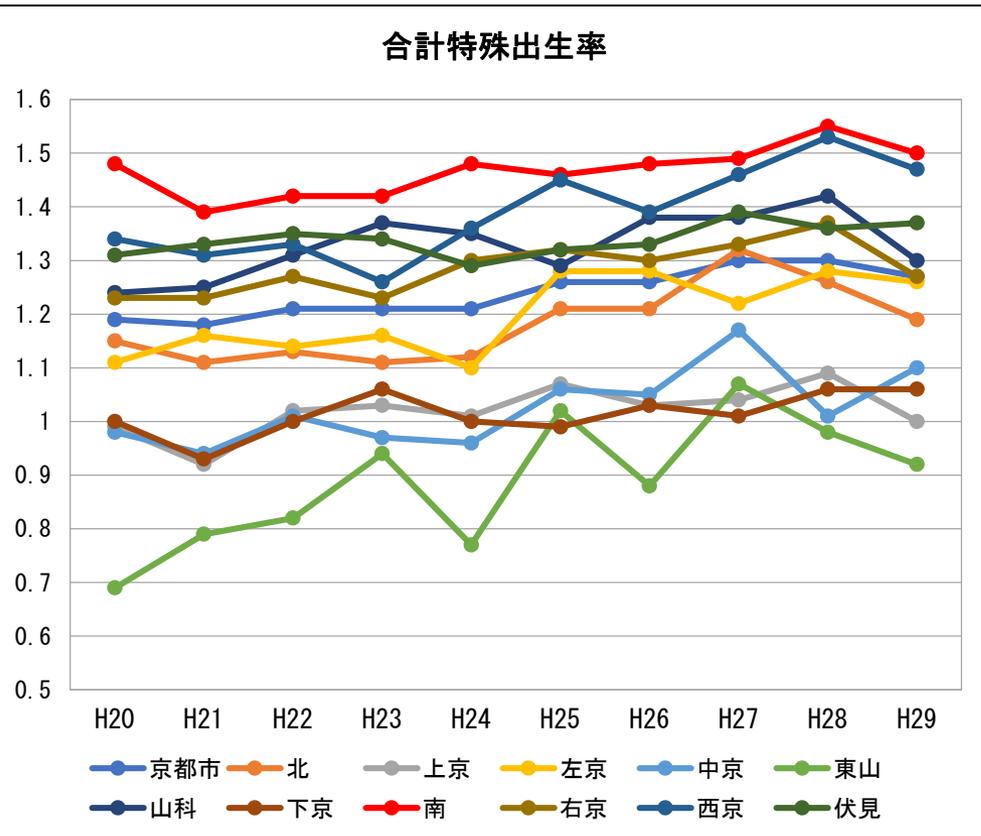
- ・ 南区の外国人登録人口は減少傾向にあったが、平成27年の調査では増加している。
- ・ 南区の国籍別外国人において平成17年と平成27年を比較すると、「韓国・朝鮮」は約2割減少しているが、「中国」は約2倍に増加している。



出典：国勢調査

(7) 合計特殊出生率及び出生数

- ・行政区別の合計特殊出生率は、平成14年から16年連続して11行政区中、南区が1位である。
- ・京都市全体の出生数は低下傾向にあるが、南区においては横ばいを維持している。

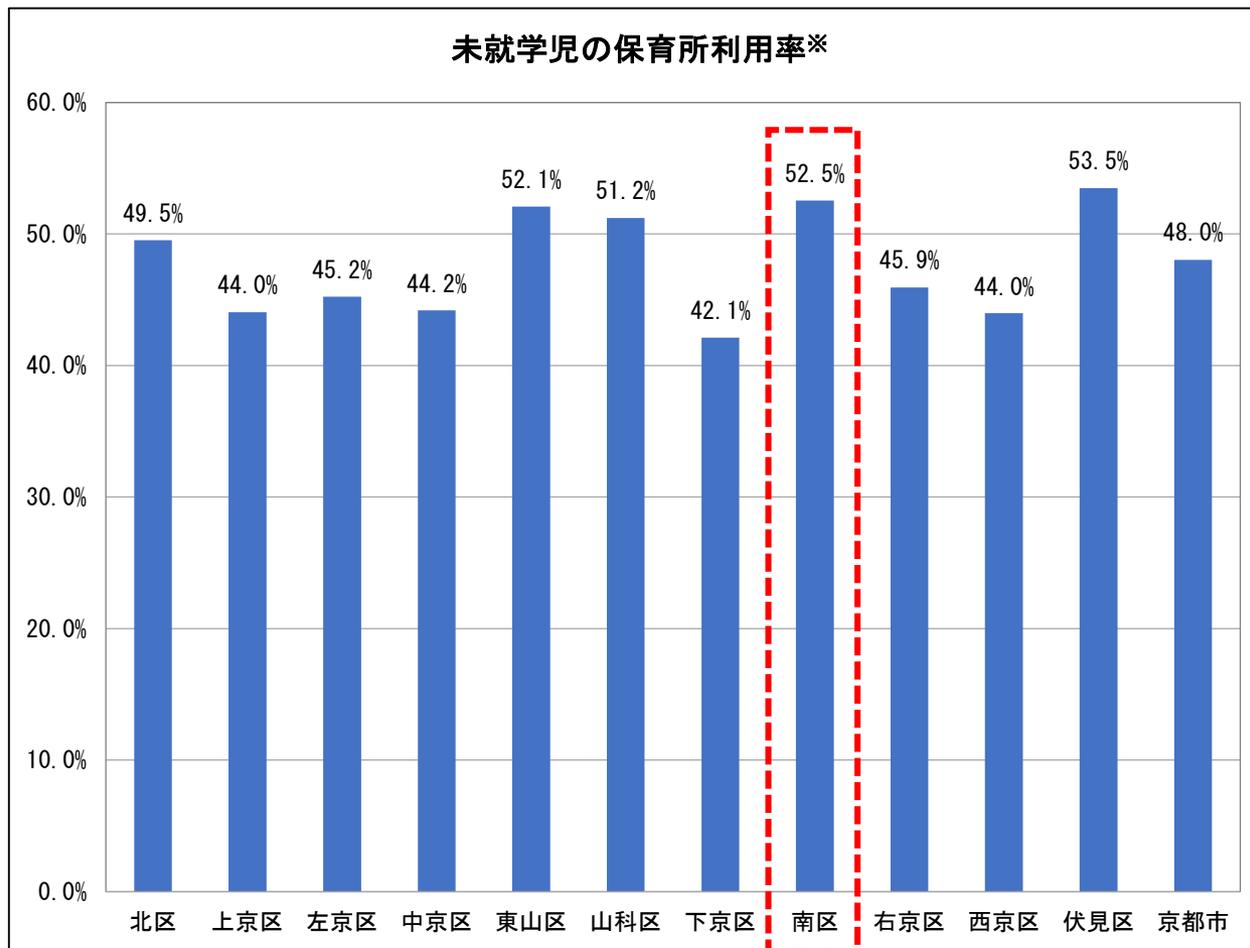


出典：平成29年 京都市の合計特殊出生率

出典：(平成2年～21年)京都市統計情報
(平成22年～29年)京都市人口統計

(8) 未就学児の保育所利用率 (平成29年)

- ・ 南区における未就学児の保育所利用率は、京都市全体の割合よりも高い。

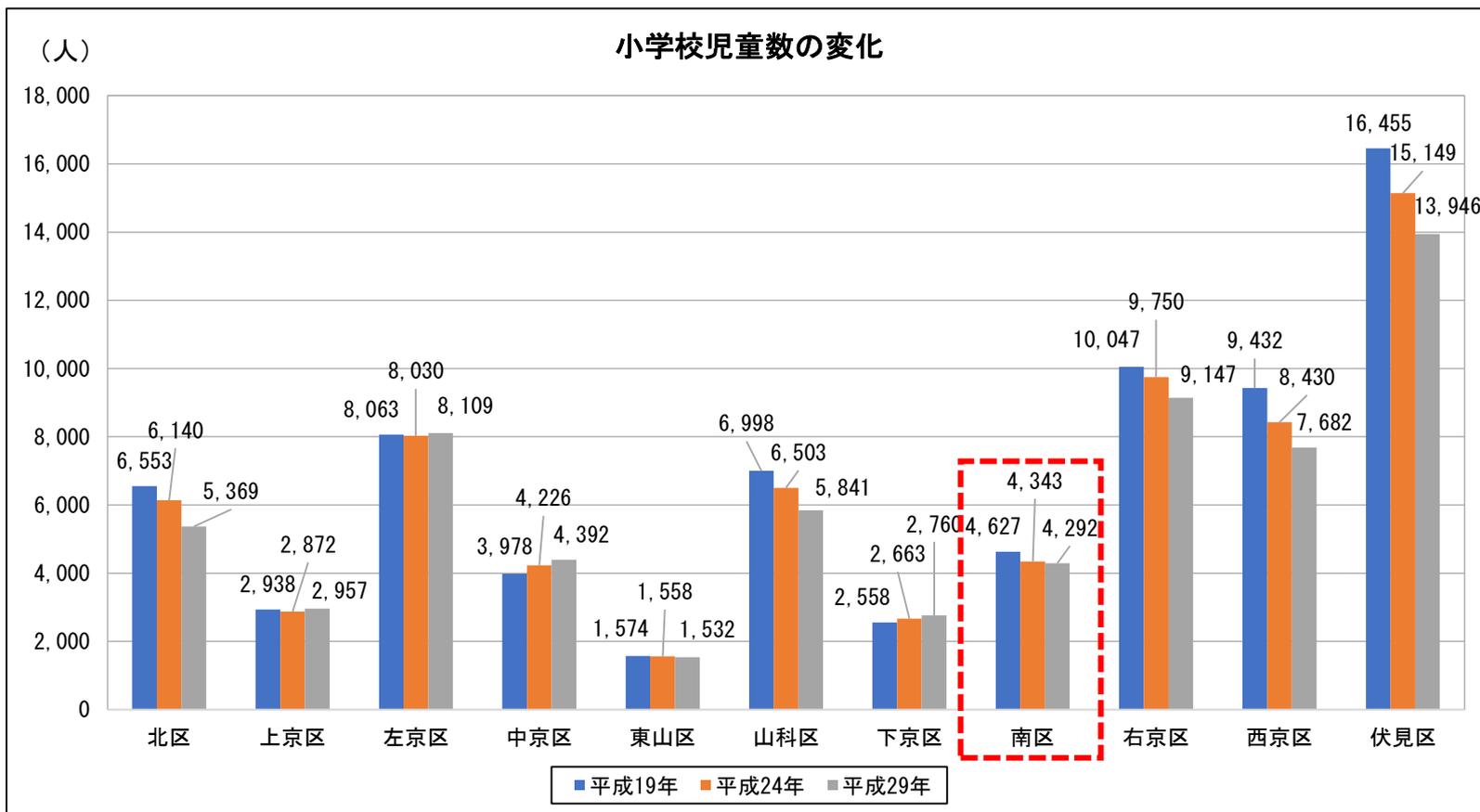


出典：京都市統計書

※ 未就学児の保育所利用率とは、「住所区別の保育所等利用児童数/小学校入学前児童数」をさす。

(9) 児童数の推移

- ・平成24年と平成29年の児童数を比較すると、「上京区」，「中京区」，「下京区」は増加しているがその他の区は減少している。
- ・南区においては，やや減少傾向にある。



出典：京都市統計書

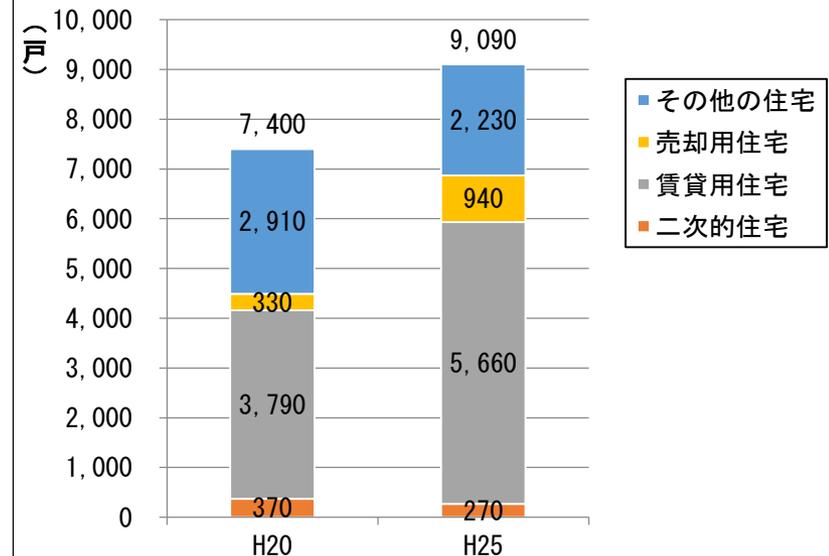
(10) 空き家の推移

- ・ 南区における空き家率の推移について、平成15年と平成25年を比較すると、16.4%から16.8%へ若干増加している。
- ・ 南区における空き家状況について、平成20年と平成25年を比較すると、7,400戸から9,090戸に約1,700戸増加している。

空き家率の推移

	H15	H20	H25
京都市	13.3%	14.1%	14.0%
北区	13.1%	16.8%	15.3%
上京区	15.8%	14.0%	12.7%
左京区	12.3%	15.5%	13.9%
中京区	12.4%	14.6%	11.8%
東山区	18.7%	20.3%	22.9%
山科区	13.2%	15.9%	14.5%
下京区	16.8%	16.0%	15.1%
南区	16.4%	14.3%	16.8%
右京区	14.0%	13.0%	11.5%
西京区	9.2%	9.6%	10.2%
伏見区	11.5%	11.9%	15.2%

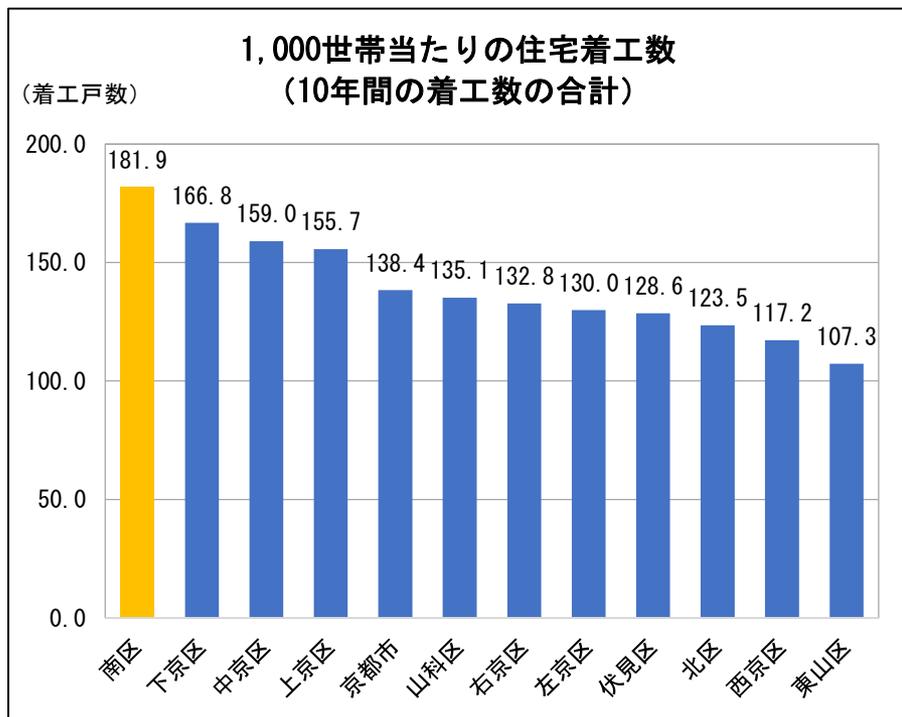
空き家の種類別空き家数の推移 (南区)



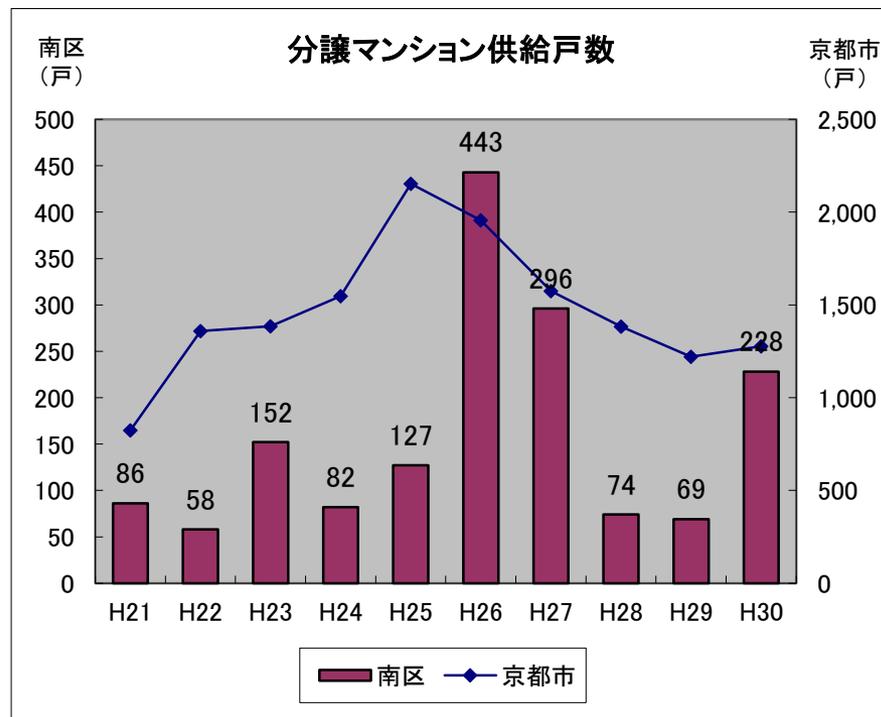
出典：各年住宅・土地統計調査 都道府県編

(11) 住宅供給戸数

- ・平成21～30年の10年間の着工戸数の合計を1,000世帯当たりで換算したところ、全区のなかで南区が最も多い。
- ・南区の分譲マンションの供給戸数は、平成26年をピークに減少傾向にあったが平成30年では200戸を超している。



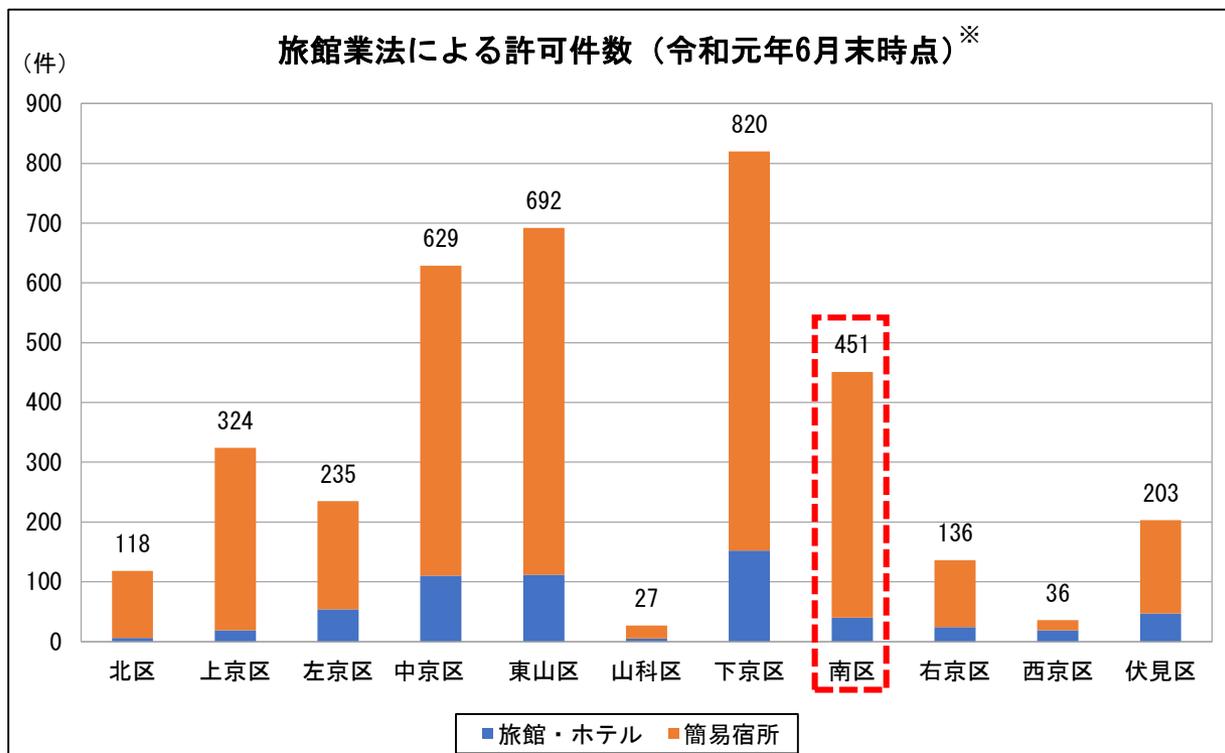
出典：住宅着工統計（H31 新設住宅着工の動向について）



出典：全国マンション市場動向（2018年度）

(12) 宿泊施設数

- ・ 旅館，ホテル，簡易宿所の許可件数は，11行政区の中では，南区が4番目（451件）に多い。

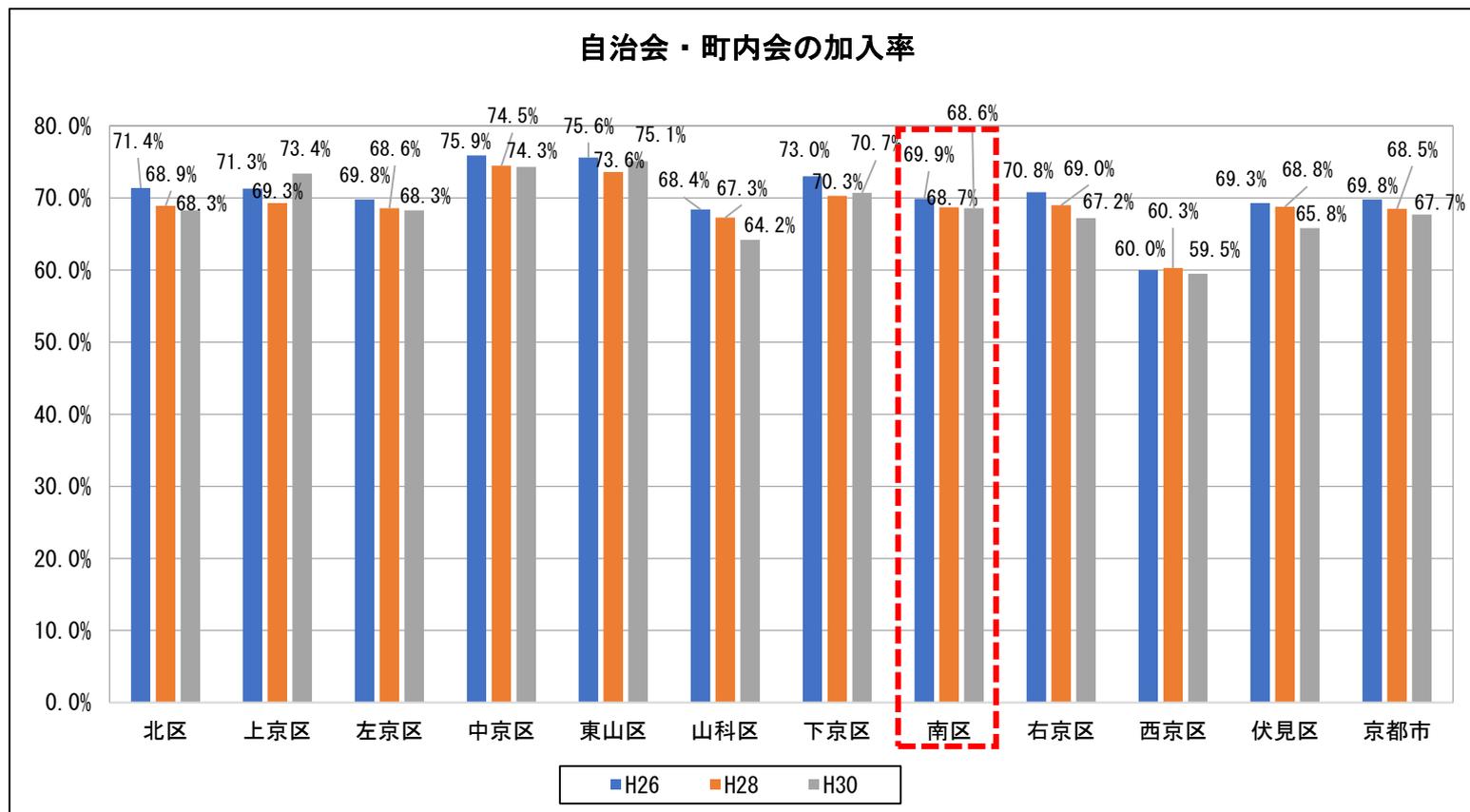


※ 京都市内において旅館業法第3条に基づく許可を受けた施設の一覧
（簡易宿所は上記の許可を受けたゲストハウスなどの民泊件数も含む）

出典：京都市オープンデータ（保健福祉局 医療衛生推進室 医療衛生センター）

(13) 自治会加入率

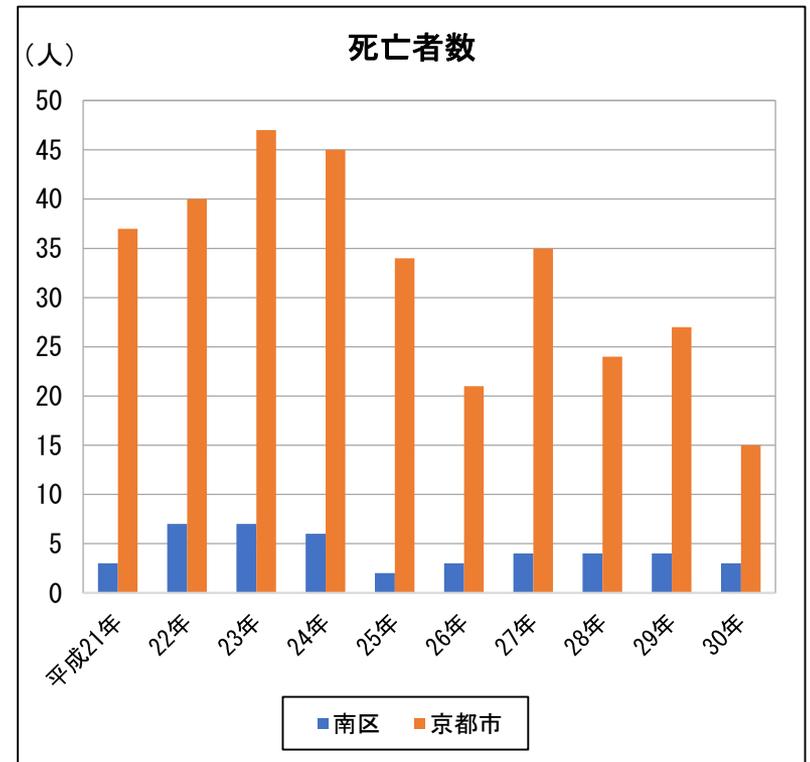
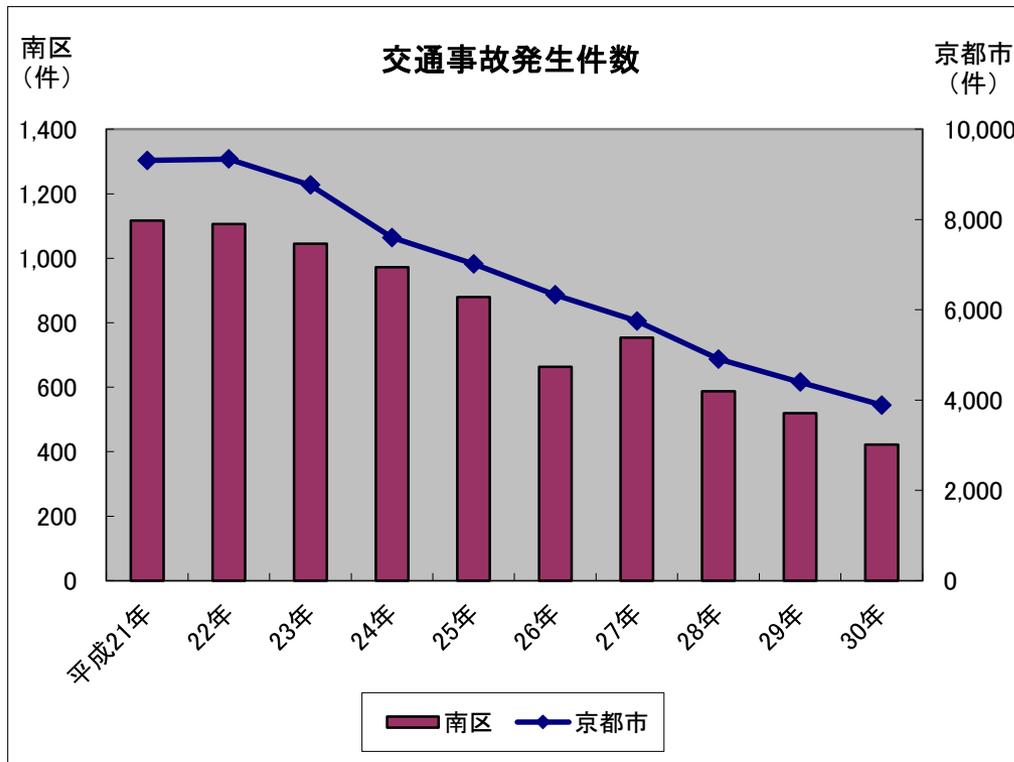
- ・ 南区における自治会・町内会加入率は、平成26年の69.9%から平成30年の68.6%へと緩やかに減少している。
- ・ 平成30年時点では、京都市推計が67.7%に対して、南区が68.6%とやや上回る結果である。



出典：各年自治会・町内会アンケート

(14) 交通事故発生件数

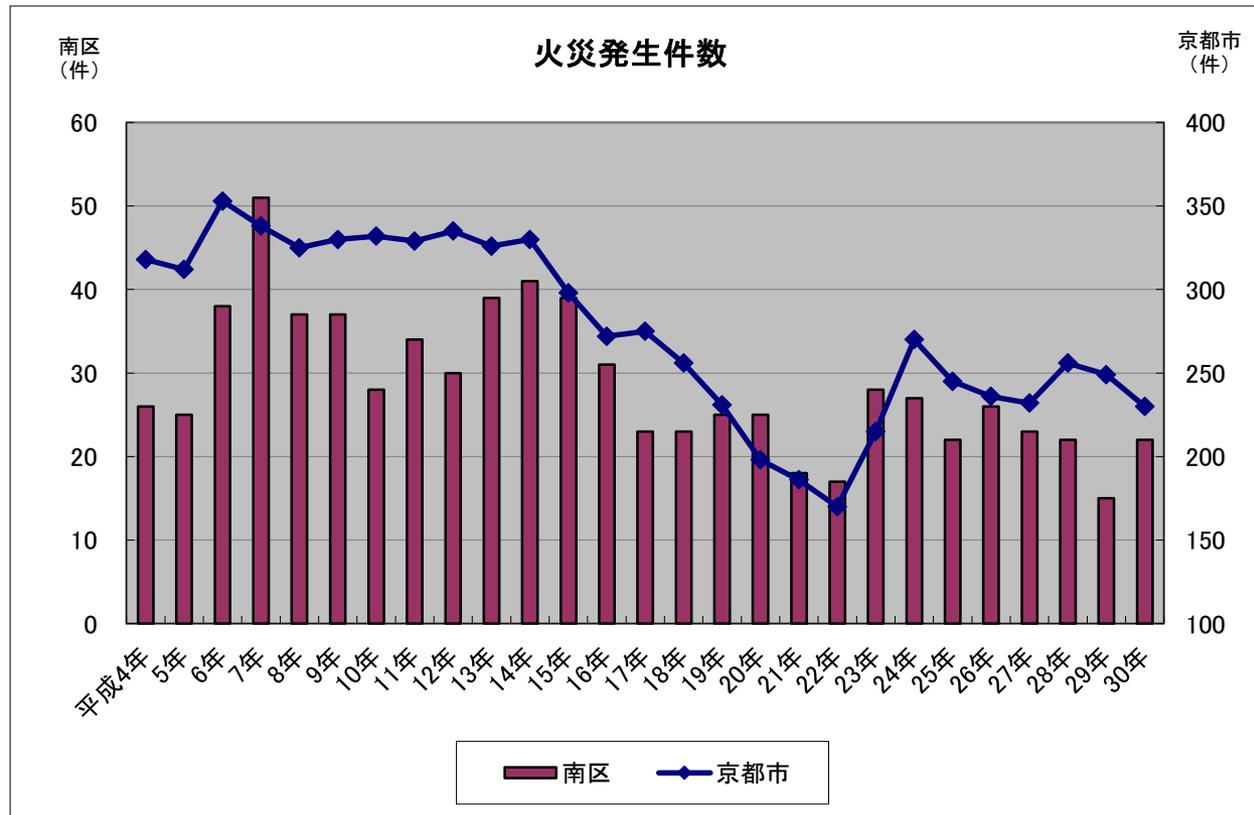
- ・京都市全体及び南区ともに交通事故発生件数が大幅に減少している。
- ・交通事故の死亡者数について，京都市はこの10年間で減少しているが，南区では大きな変化は見られない。



出典：京都府交通統計

(15) 火災発生件数

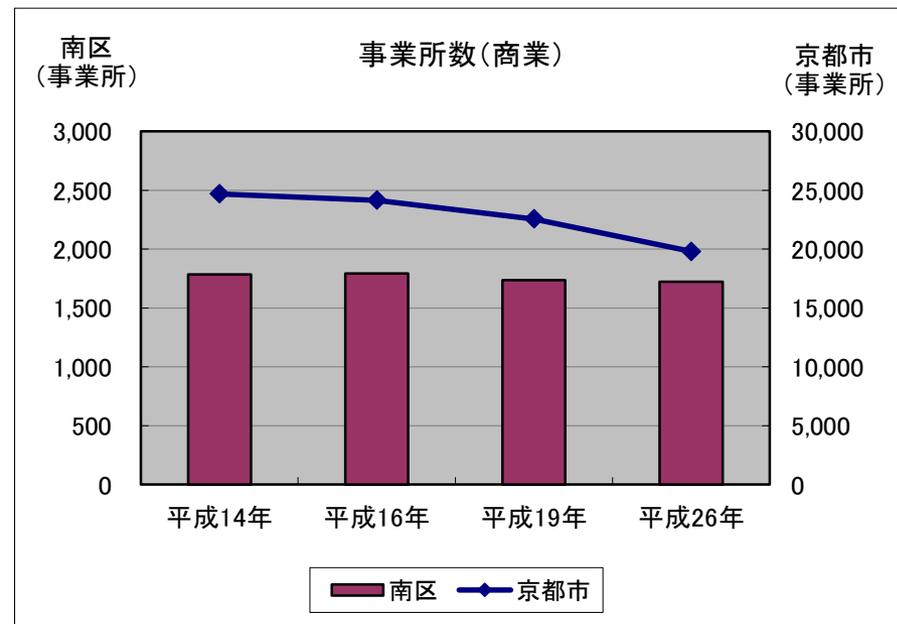
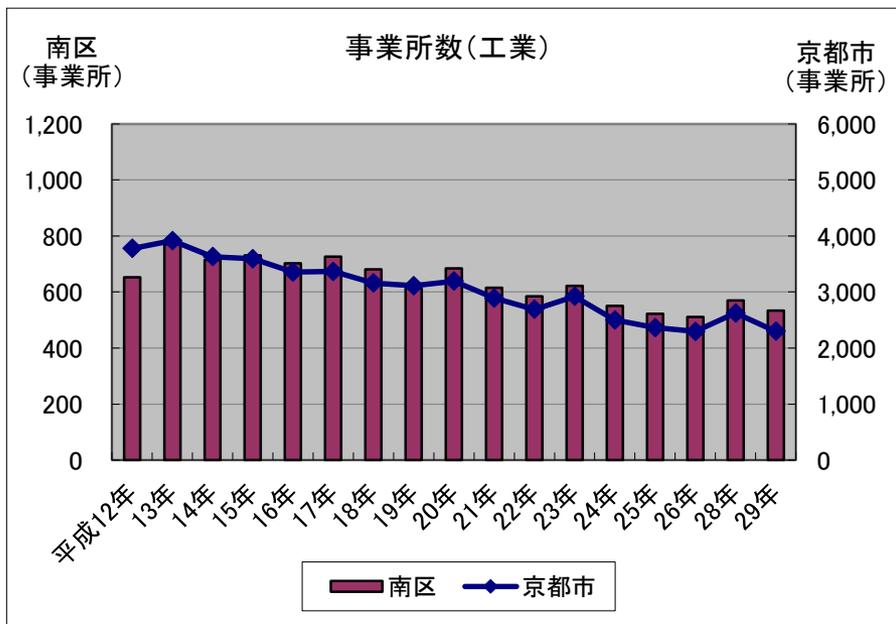
- 京都市全体の火災発生件数はここ数年、減少傾向にあり南区においても同様の傾向が見られる。



出典：(平成11年～20年) 京都市南消防局
(平成22年～30年) 京都市消防局

(16) 事業所数・製造出荷額・商品販売額

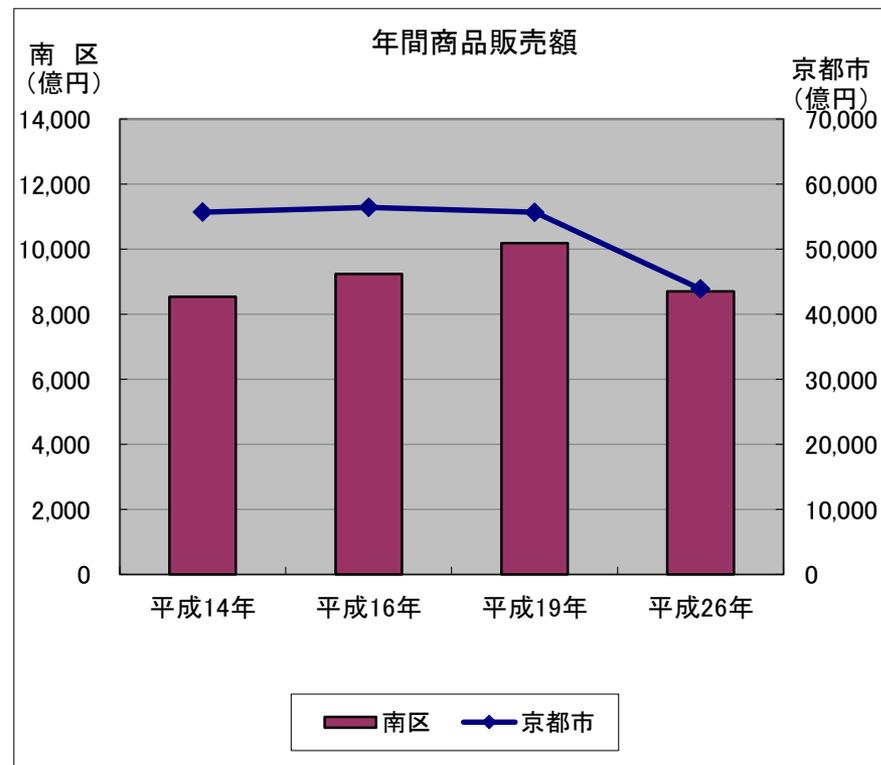
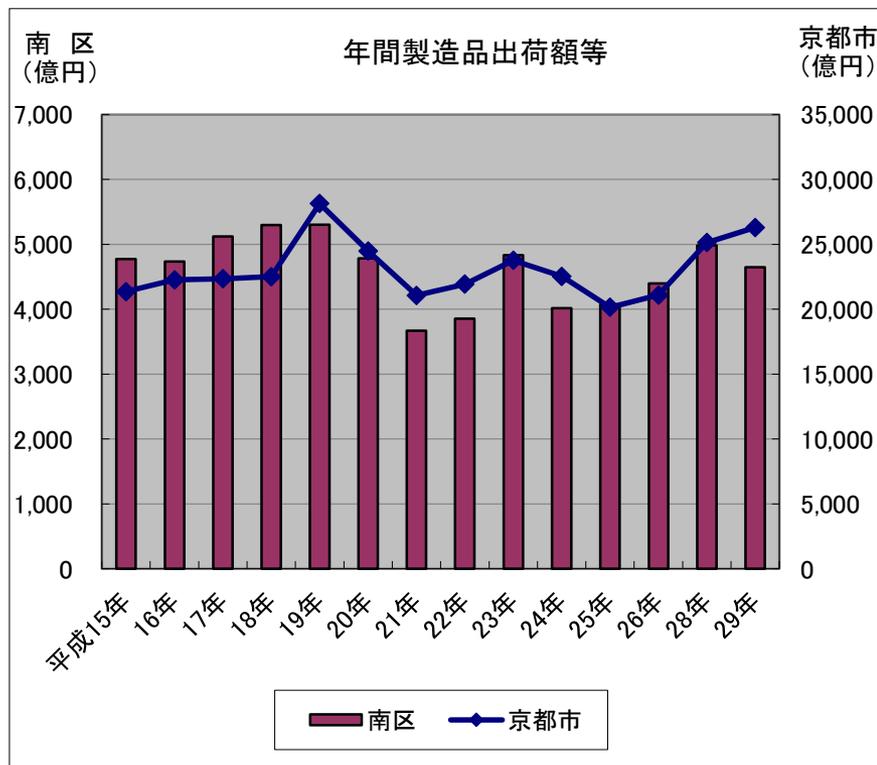
- ・京都市全体の事業所数は工場及び商業ともに減少傾向にある。
- ・南区の事業者数（工場）は，減少傾向にあるが，商業の事業者数は横ばいである。



出典：各年工業統計，商業統計

(17) 事業所数・製造出荷額・商品販売額

- ・ 南区における年間製造出荷額は、平成24年から平成28年は増加していたが、平成29年には減少した。
- ・ 南区における年間商業販売額は、平成14年から平成19年は増加していたが、平成26年には減少した。



出典：各年工業統計，商業統計